経済産業省

資料２

携帯液化石油ガス用バーナー（いわゆるガストーチ）の特定液化石油ガス器具等への指定について

令和６年10月23日

産業保安・安全グループ

製品安全課

前回の審議会における主な議論

- 前回の審議会において、以下のような議論を頂き、**携帯液化石油ガス用バーナー（ガストーチ）の規制対象化について賛同を頂いた**ところ。

- **ガストーチの規制は是非行ってほしい**と思っている。**違反なもの・危険性のあるものについて、消費者の手元にあるものの回収や廃棄の方法も**含めて教えてほしい。
- ガストーチの事故が起きていることについて、もっと**消費者に注意喚起や周知**を図ってほしい。
- **注意喚起のチラシ**について共有頂ければ、**来店されたお客様への周知・注意喚起**も可能。





携帯液化石油ガス用バーナーの特定液化石油ガス器具等への指定について

- **「携帯液化石油ガス用バーナー」**を液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（液石法）上の規制対象製品である**「液化石油ガス器具等」（○PSLPG対象製品）**に指定するとともに、**「特定液化石油ガス器具等」（◇PSLPG対象製品）**に指定することとする。

※規定の書きぶりは案

液化石油ガス器具等及び特定液化石油ガス器具等への指定について

「液化石油ガス器具等」については、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律第2条第7項において、また「特定液化石油ガス器具等」については、同法第2条第8項において、政令に委任されていることから、同法施行令（昭和43年政令第14号）別表第一（「液化石油ガス器具等」）及び別表第二（「特定液化石油ガス器具等」）に次の一号を加える。

別表第一に次の一号を加える。

十三　携帯液化石油ガス用バーナー（液化石油ガスを充塡した容器が直接取り付けられる構造のものに限り、当該容器との接続部から火炎を出す位置までの距離が三十五センチメートル以上のもの及び当該容器（液化石油ガスの吸収材の使用その他の液化石油ガスの漏えいを防止するための加工がされているものに限る。）との接続部がねじ式のものを除く。）

別表第二に次の一号を加える。

八　携帯液化石油ガス用バーナー（液化石油ガスを充塡した容器が直接取り付けられる構造のものに限り、当該容器との接続部から火炎を出す位置までの距離が三十五センチメートル以上のもの及び当該容器（液化石油ガスの吸収材の使用その他の液化石油ガスの漏えいを防止するための加工がされているものに限る。）との接続部がねじ式のものを除く。）

＜**液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（液石法）**＞（抜粋）

第２条（略）

７　この法律において「液化石油ガス器具等」とは、主として一般消費者等が液化石油ガスを消費する場合に用いられる機械、器具又は材料（一般消費者等が消費する液化石油ガスの供給に用いられるものを含む。）であつて、政令で定めるものをいう。

８　この法律において「特定液化石油ガス器具等」とは、構造、使用条件、使用状況等からみて特に液化石油ガスによる災害の発生のおそれが多いと認められる液化石油ガス器具等であつて、政令で定めるものをいう。

携帯液化石油ガス用バーナーの特定液化石油ガス器具等への指定について

- **以下のとおり、「携帯液化石油ガス用バーナー」**について、液石法上の**「液化石油ガス器具等」及び「特定液化石油ガス器具等」**に指定する。

液化石油ガス器具等及び特定液化石油ガス器具等への指定について

携帯液化石油ガス用バーナー（液化石油ガスを充塡した容器が直接取り付けられる構造のものに限り、当該容器との接続部から火炎を出す位置までの距離が三十五センチメートル以上のもの及び当該容器（液化石油ガスの吸収材の使用その他の液化石油ガスの漏えいを防止するための加工がされているものに限る。）との接続部がねじ式のものを除く。）

- 「携帯液化石油ガス用バーナー」については、**一般消費者等が液化石油ガスを消費する場合に用いられる機器**であり、**近年、使用に伴う火災事故**が多く発生している。（次頁参照）
- 主な事故原因としては、カセットボンベと接続する部分の気密を保持するためのOリングの不具合や不良により、ガスが漏えい・引火したものや、使用に際して大きく傾けたときに液体燃料が気化されないまま噴出して異常燃焼したもの等が挙げられる。
- 現状では、「携帯液化石油ガス用バーナー」には**法的な規制は存在しない**が、事故の発生状況を踏まえ、**政令において「液化石油ガス器具等」に指定**することにより、販売規制を実施することが必要。

- 加えて、「携帯液化石油ガス用バーナー」は、
  -**直接カセットボンベに接続して用いる構造**であるため、気密不良や接続の不安定さからガス漏れが発生しやすい。
  -**消費者が手に持って使用**するため、火炎に驚いて落としたりすることで、危険な火災事故につながる可能性がある。
  -近年、輸入品も含め普及が進み、**火災件数は増加**している。
  ことから、「特定液化石油ガス器具等」への指定の要件を満たす。

※なお、同じように**カセットボンベに接続して用いる構造等**を有する**「液化石油ガスこんろ」**は昭和４３年に「特定液化石油ガス器具等」に指定されている。

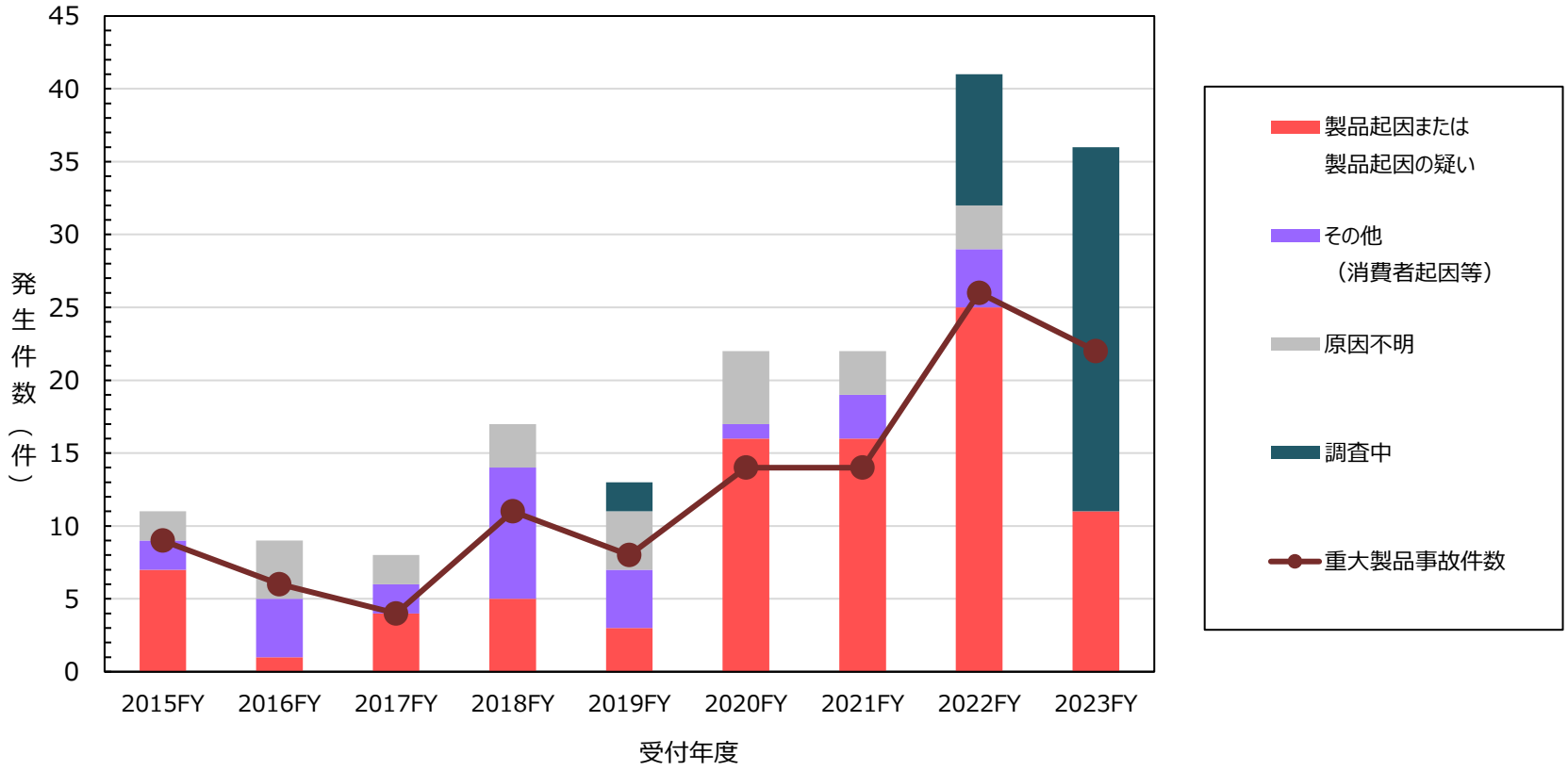
＜**液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（液石法）**＞（抜粋）
第２条（略）
７　この法律において「液化石油ガス器具等」とは、主として一般消費者等が液化石油ガスを消費する場合に用いられる機械、器具又は材料（一般消費者等が消費する液化石油ガスの供給に用いられるものを含む。）であつて、政令で定めるものをいう。

８　この法律において「特定液化石油ガス器具等」とは、構造、使用条件、使用状況等からみて特に液化石油ガスによる災害の発生のおそれが多いと認められる液化石油ガス器具等であつて、政令で定めるものをいう。

【参考】事故件数の推移・概要　（※出典：8月27日合同会議資料）

- **近年、製品の使用**による**火災事故が多数発生。**
- 消費生活用製品安全法に基づく**重大製品事故**及び**非重大製品事故**の合計件数は**ここ数年20件以上**で推移。

携帯液化石油ガス用バーナーによる製品事故件数



出典：独立行政法人製品評価技術基盤機構（ＮＩＴＥ）

※2023年度末時点の調査結果に基づくものであり、調査の進展を受けて件数に変更が生じる可能性がある。

携帯液化石油ガス用バーナーの特定液化石油ガス器具等への指定について

● 指定に当たり、**事故が多発している製品を規制対象**とするため、具体的な対象範囲を規定する。

「液化石油ガス器具等」及び「特定液化石油ガス器具等」への指定について

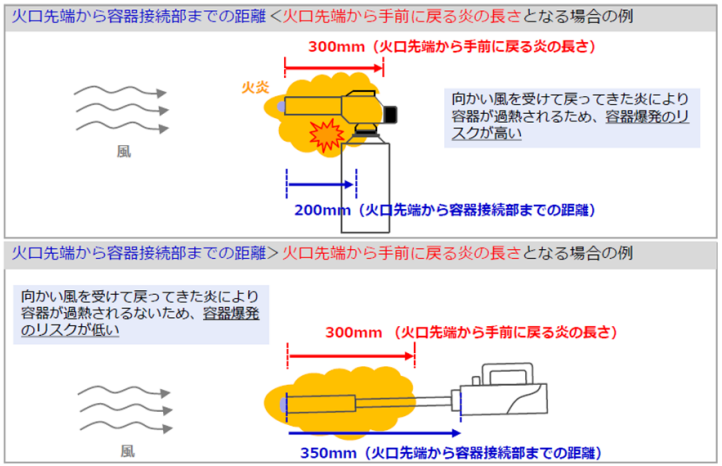
携帯液化石油ガス用バーナー（液化石油ガスを充填した容器が直接取り付けられる構造のものに限り、当該容器との接続部から火炎を出す位置までの距離が三十五センチメートル以上のもの及び当該容器（液化石油ガスの吸収材の使用その他の液化石油ガスの漏えいを防止するための加工がされているものに限る。）との接続部がねじ式のものを除く。）

・「液化石油ガスを充填した容器が直接取り付けられる構造のもの」以外のものとして想定される製品：
　⇒（左下図参照）配管工事用のガスホースを介して取り付ける製品は、**ボンベを傾けて使用することが想定されず、液化石油ガスの逆流が起きにくい。**
・「当該容器との接続部から火炎を出す位置までの距離が三十五センチメートル以上のもの」として想定される製品：
　⇒（中下図参照）容器との接続部から火炎を出す位置までの距離が長く、その長さが35cm以上ある場合には、**容器爆発のリスクが低い。**
・「当該容器（液化石油ガスの吸収材の使用その他の液化石油ガスの漏えいを防止するための加工がされているものに限る。）との接続部がねじ式のもの」として想定される製品：
　⇒（右下図参照）**吸収材の封入その他の漏えいを防止するための加工が施されたボンベとねじ式で接続される構造**であり、**ガス漏れが起きにくい。**

配管工事用としてガスホースを介して取り付ける製品の例

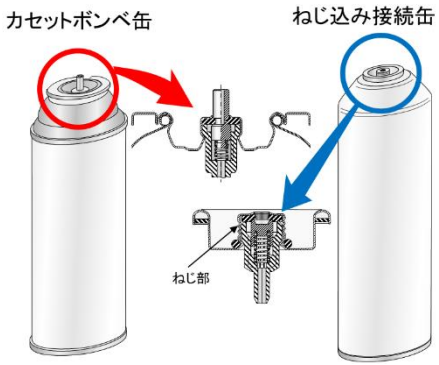


容器接続部から加工先端までの距離の違いによる事故リスクの違い



【出典】令和4年度産業保安等技術基準策定調査研究等事業（ガストーチの安全性能に関する技術基準の策定等調査事業）報告書より抜粋

吸収材を封入した「ねじ式」のボンベ缶（右）



携帯液化石油ガス用バーナーの技術基準について

- 液石法の技術基準は、性能規定化されるとともに、省令に整合する例として規定された性能を満たす技術的内容を別途規定（※）している。「携帯液化石油ガス用バーナー」についても、**事故の防止のために必要な技術的内容**を定める。（安全性に関わる構造的な共通点が多い、液化石油ガスこんろ（カートリッジガスこんろ）の規定を参考に規定）

（※）「液化石油ガス器具等の技術上の基準等に関する省令の運用について」

【事故の主な原因や
使用上の主な課題（例）】

・接続部に使用されるOリングの不具合・品質不良によるガスの漏えい

・傾けた状態での使用により液化燃料が気化されずに漏えい

・使い方が確認できる説明資料の不足

・使用する容器の指定

等

【技術基準（液石法省令）（抜粋）】

1　一般要求事項
（２）安全機能を有する設計等
（３）供用期間中における安全機能の維持
・・・・
（５）耐熱性等を有する部品及び材料の使用

2　危険源に対する保護
（１）火災の危険源からの保護
・・・・

3　表示

【液化石油ガス器具等の技術上の基準等に関する省令の運用について】
※技術上の基準を満たす技術的内容の例を規定
※事故防止の観点から、以下（例）の趣旨に係る事項を「携帯液化石油ガス用バーナー」について新たに定める。

（例）：
-Oリング等の液化石油ガスの通る部分の部材について、ガスや熱による影響に耐えること

-液化石油ガスを気化する機能を有すること

-燃焼器には取扱説明書が添付されていること

-燃焼機本体及び取扱説明書に使用する容器が表示されていること

今後のスケジュール（想定）

令和６（2024）年８月27日　　消費経済審議会・産業構造審議会

令和６（2024）年10月23日　　消費経済審議会・産業構造審議会【本日】

⇒液石法政令改正（「携帯液化石油ガス用バーナー」の追加）

※「携帯液化石油ガス用バーナー」は「特定液化石油ガス器具等」（◇PSLPG）に追加することから、**登録検査機関による検査**を経たものでないとPSマークの表示を付して販売することができないこととなる。

このため、政令の施行前に**登録検査機関の登録等に係る措置を講じる必要があるが**、**政令の公布日から２箇月後の施行を予定し、この間に必要な手続を講ずる**ことを予定（検査機関から国への登録のための申請（液石法第51条第１項）、検査機関からの業務規程の届出（法第57条第１項）等）。

また、在庫品の保存期間など、ガストーチの流通実態を考慮し、政令の施行前に製造された製品を販売する期間として、**施行日から１年間の経過措置期間**を設けることとする。